結成20周年
新たな大躍進に向け出発！

日刊 動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合
〒260-0017 千葉市中央区要町2番8号（動力車会館）
電話（鉄電）千葉 2935・2939番
（公）043（222）7207番
99.7.24 No. 4994

「日の丸・君が代」法案の衆院可決を弾劾する！

翼賛国会だ！

昨日（22日）、「日の丸・君が代」を国旗・国歌とする法案が、自自公と民主党の一部も含む賛成多数で衆議院を通過した。

翼賛状況と化した国会では、ありとあらゆる反動法案が、まともな審議ひとつされないまま数の論理を頼みとして次から次へと成立している。社会の全面的な反動化が進み、戦争への道が敷きつめられようとしている。われわれは怒りを込めて弾劾する。国旗・国歌法案の成立を阻止するために全力で起ちあがろう！

「戦後」の反動的決着狙う攻撃

「日の丸・君が代」法制化攻撃は、戦後半世紀以上のわたる戦争責任や歴史認識に関する論争と攻防に一挙に決着をつけ、天皇制賛美と国家主義のイデオロギーを蔓延させようとする重大な攻撃だ。また、日教組を最後的に解体し、教育労働者の闘いを圧殺しようとする攻撃である。

法案の提出にあたってだされた新たな政府解釈では、「君が代」の「君」は、「主権の存する国民の総意に基づく天皇」を意味し、「代」は国を表すとされた。「天皇の支配する国」の永遠の繁栄を願う歌であることを明確にした上で、国歌として法制化するというのだ。

「日の丸・君が代」は、数千万のアジアの民衆を虐殺し、沖縄戦やヒロシマ・ナガサキの悲劇につき進んだ、かつての侵略戦争の歴史と切り離して語ることはできない。ドイツやイタリアは、戦争への反省を込めて戦後に新たな国旗を制定し、オーストリアも国民投票で国旗を選んだ。日本だけが歴史への明確な反省もなく、戦後も天皇を象徴として仰ぎ、そして今侵略の旗＝日の丸を国旗として制定し、天皇制賛美の歌君が代を国歌として制定しようというのだ。ガイドライン関連法の制定と期を一にして、天皇とそれをかつぐ権力体制－「国体護持」のイデオロギーが全面的に鼓吹されようとしている。

強制、闘いの圧殺

新聞では、「強制を伴う指導指導は行わない」などと書かれているが、野中官房長官は国会答弁で「少なくとも教育公務員として公務員法に基づいて職責を得る人はわが国の法律には忠実であるべきだ」と答弁している。衆院通過の前日には、君が代の伴奏を拒否した先生が処分され、その二日前にも起立しなかった先生が処分されている。天皇への忠誠、国家への忠誠が教育労働者の踏絵として強制されることになるのは明らかだ。かつて教師用の指導書では、日の丸について次のように記されていた。「わが国は日の本の国であり、日の神直系の御子孫のしろしめす国であり、日本人は日の神の末裔であると、みづからを任じ来った。このやうにして、肇国以来揺ぎなき国体とともに国民精神の反映が日の丸の旗のうちに鮮やかに看取せられるのである。従って、日の丸の旗の由来について説かうとすれば皇統連綿たる国史と国士国勢とさうして国民性とのすべてにわたって触れて行かざるを得ない」――「日の丸」に特別の敬意をはらい、「君が代」を起立させて斉唱させ、そして天皇を敬う。これは紛れもない思想の統制だ。こうしたやり方で、子供たちや教育労働者の人格が支配されようとしている。

こんなことは絶対に許せない。「日の丸・君が代」法制化法案を廃案に追い込もう。

八・六広島へ！

今、その矢面にたたされようとしている教育労働者は必死の思いで起ちあがろうとしている。現在の法制化攻撃は、「君が代」の強制による広島県の校長の痛ましい自殺を逆手にとって、一挙に現実化することになったが、広教組はこの攻撃に真正面からたち向かおうとしている。

敵は広教組の解体をとおして、あわせて広島の根強い反戦平和への願いをもおし潰そうとしているのだ。「八・六広島大行動」うちつづく反動攻撃への反撃への重要な闘いとして、全国の労働者・市民に呼びかけられている。われわれも派遣団三〇名を広島に送りだす方針を決定した。怒りの声をほりおこし、今こそ反撃を開始しよう。

この反動攻撃！

今国会にひしめく反動法案はそればかりではない。5月24日のガイドライン法案の成立につづき、6月30日には、労働者派遣法と職安法の改悪案が成立し、労働者の雇用と賃金、権利が根底から脅かされようとしている。また7月8日には中央省庁改革法案、地方分権一括法案が成立し、独裁的な権力機構がつくられ、戦後民主主義の重要な柱であった地方自治が解体されようとしている。また、組織的犯罪対策三法案は衆院を通過し、八月上旬に参院通過が画策されている。また、なりふり構わない大企業の救済とリストラの法制化ともいうべき産業競争力強化法案が審議入りしている。これは、「設備・雇用・債権という三つの過剰の解消」を目的に掲げたものだ。

こうした反動法案をその内容によって括れば、それらは、①戦争法案、②治安弾圧法案、③大企業救済法案、④労働者の首切り・権利破壊法案、の四つに分けることができる。まさに、戦後日本の国家・社会の在り方が根本から覆され、戦争への道が準備されている。

そしてその一方で、沖縄・三里塚・国鉄・ヒロシマ・狭山等闘いの拠点や労働者の階級意識を解体しようとする攻撃が一斉に始まっている。この情勢を目そらすことなく見すえ、今こそ闘いを組織しよう。

大失業と戦争の時代に通用する新しい世代の動労千葉を創りあげよう！